

令和 8 年度学校運営協議会（第 1 回）議事録

校長	府立泉北高等支援学校
校長名	岸田 明子

開催日時	令和 8 年 7 月 2 日（木）13:30~15:00
開催場所	大阪府立泉北高等支援学校 応接室
出席者（委員）	中島 康明（会長） 前田 光一（副会長） 魚住 敦子（委員） 樋上 一真（委員） 西村 哲也（委員） * 平田 仁巳委員は欠席。
出席者（学校）	岸田 明子（校長） 米田 拓朗（教頭） 宮園 奈穂美（事務長） 前田 映三子（首席） 浅谷 岳志（首席） 上野 浩嗣（教務主任） 篠原 祐（進路指導部長） 中野 友絵（LS）
傍聴者	なし
協議資料	委員会名簿 次第 学校運営協議会実施要項 令和 8 年度使用教科用図書と図書見本 泉北レモンプロジェクトの取組み ・ 2 年生総合の取組み内容 ・ 泉北高校との交流予定と目標イメージ図 ・ 教科横断的なシラバス作成の流れイメージ図 令和 8 年度学校経営計画及び学校評価
備考	意見箱への投書なし

議題等
(1) 諸連絡（配付物の確認、次第の確認、傍聴者の確認、意見箱について） (2) 学校長挨拶 (3) 学校運営協議会実施要項について (4) 運営協議委員会長・副会長選出について (5) 学校運営協議会会長挨拶 (6) 令和 8 年度採択教科書について (7) 泉北レモンプロジェクトの進捗について (8) 令和 8 年度学校経営計画について (9) 質疑応答・意見交換 (10) 会長まとめ (11) 今後の学校運営協議会予定について
協議内容・承認事項（説明・意見の概要）
(1) 諸連絡 ・ 配付物の確認 ※協議資料参考

- ・次第の確認
- ・傍聴者の確認→傍聴者なし
- ・意見箱について→投書なし

(2) 学校長挨拶

(3) 学校運営協議会実施要項について→附則を含め承認いただく

(4) 運営協議委員会長・副会長選出について→承認いただく

(5) 学校運営協議会会長挨拶

(6) 令和8年度採択教科書について

- ・資料リストの順に実際に教科書を提示しながら説明を行う。

(7) 泉北レモンプロジェクトの進捗について

【生徒の活動の様子】

- ・2年総合テーマ「環境」と関連付け、「無駄なく資源を活用しよう」というテーマで今年度から商品開発に向けて動いている。泉北高校との学校間交流を開始し、産学連携をして商品を開発する予定。
- ・グループ分けについては、学校間交流に意欲のある生徒で泉北高校との交流班を構成し、その他の生徒で別班を構成してそれぞれ商品開発を行う。商品化する者については現在模索中である。
- ・学校間交流については、「ともに学び、高め合う共創の場」としてそれぞれの学校が得意分野を生かした対等な商品開発を行い、全員が主役として表舞台に立ち、インクルーシブ教育と進路へむけたキャリア教育を推進することを説明。
- ・学校間交流班の生徒だけでなく、全ての生徒たちが取り組むことができる内容について考えて取り組んでいく。

【カリキュラムとしての取り組み】

- ・教科横断的にシラバスを再編する中で、レモンプロジェクトに関する取り組み内容をシラバスに盛り込み作成する予定である。
- ・昨年度2月、レモン研修にて各教科での取り組み内容の案を教員間で出し合い、共有を行っているので、その意見をふまえてシラバスの内容を検討する。

(8) 令和8年度学校経営計画について

- ・資料「令和8年度学校経営計画及び学校評価」を基に、4つの柱について学校長より説明。

- ①「知的障がい教育の専門性向上」：人権に配慮した支援指導を行う。地域支援についてはLS専任を中心に取り組む。
- ②「キャリア教育」：泉北レモンプロジェクトを含め教科横断的に進め、自分らしく社会に参加する力を培う。地域と連携を深め、発信していく。
- ③「信頼される学校づくり」：防災、警戒レベルに応じた対応方法をアップデートする。
- ④「働き方改革」：業務の偏りが大きいことが課題である。ICTが苦手な教員も取りこぼすことなく、自身にあった形でのICTの活用を促したい。

(9) 質疑応答・意見交換

泉北レモンプロジェクトおよび地域連携について

- ・プロジェクトの内容だけでなく、それ以上にお互いを理解する共同学習の視点となっている。
- ・キャリア教育といえば職場体験などのイメージがあるが、プロジェクトを通して、同年代と対話しながら進めることでキャリア教育の素地を養いキャリア形成につながるので、ぜひ継続してほしい。
- ・上神谷支援学校でもキャリア教育を企業と連携して進め、様々な職業に対する視点を広げたいと取り組んでいる。泉北支援学校も同じ方向性であることが喜ばしい。
- ・支援学校が地域支援として尽力している支援教育がなかなか一般の方に浸透していない。その中で泉北レモンプロジェクトはインクルーシブ教育につながり、社会全体の考え方を変えていくゴールになるのではないか。
- ・地域連携でのあいさつ運動について、自治会にも日程を教えてほしい。地域での集まりでも販売学習をしてもらってもよい。原山まつりへ軽音楽部の出演も検討してほしい。

学校経営計画全体について

- ・めざす学校像について大きく変化することはないか。
→生徒にも「チャレンジ・つながる・自立」が浸透しているのでかわることはない。
- ・キャッチコピーについて、職員室に貼ったりしているのか。キャッチコピーは教職員だけでなく生徒にもわかりやすく、意識しやすい。「安全・安心」については特に何か生じたときに考えることが多いが、普段からキャッチコピーとして提示しておくことで意識につながるので、子どもたちも一緒に共有できるツールとして使えたらよい。

働き方改革について

- ・教員の負担軽減が重視されているが、「仕事を減らす」「教員が楽をする」ではなく、「同じ仕事を短い時間でできた」「なくてもよいものはなくす」などが効果的だと思う。生成AIを使って効率がよいが、業務量を減らす、業務を早くするために、デジタル化をする教員の業務量が増えるというのでは方向性がずれてしまう。会議の短縮の工夫などで負担軽減は少なくなるのではないか。
→会議については紙面会議を行うことで、会議時間は軽減されているが、紙面とすることのデメリットも生じている。「見て触れる」教材の良さも取り入れていきながら教材研究も必要。経験年数が高い教員に教材を共有して全体で蓄積することで、教材研究の時間が短縮できたらと考える。
PCの得意不得意に差があるが、わからなければ聞けるような雰囲気づくりが大切。マニュアルまでたどりつけない場合もある。対話をしながらPCが苦手な人もその人ができる範囲のICT活用でもよいのかと考えている。仕事ができる人が、業務過多になっている。いかに仕事をふっていくかが大切であると考えている。
- ・地域の自治会でも会議の短縮・簡素化が求められる。スマホなどを活用して行っているが、そ

もそも I C T が苦手な人への勉強会から始めなければならない。原山台中学校は原山台プールを利用しており、プール管理、指導は外部で行っている。メンテナンスも楽なので、そのように外部化することも一つの方法ではないか。

専門性の向上について

- ・授業見学および授業の工夫を記入するカードとはどのようなものか。

→お互いの授業を見学する機会を設け、授業力を向上する場としている。見学の際には、主体的で対話的で深い学びの授業づくりの観点を示した項目があり、見学した授業の工夫点についてチェックし、感想とともに授業者にフィードバックできるようになっている。カードは一度研究支援部が集約してから、授業担当者に渡している。

→授業見学のカードを紙ではなくフォームにしていつでも入力できるようにしてはどうか。スプレッドシートでまとめ、集約も楽ではないか。

- ・LS の支援学校の中での役割とは何か。

→地域支援活動として、大阪府の中でブロックに分かれ、他校と連携して地域の学校支援に行く。各学校からの依頼や困り感について支援や研修を行っている。今年度はブロック推進校となっている。

- ・人権研修について、人権感覚を深化させていくことが大切。再発防止が続くということは被害生徒のケアにもつながる。

防災対策について

- ・スペースの提供等について協定を結ぶはどういうことか。

→地域企業などと連携をとり、バス運行中の発災時などにバスの停車や物資供給などの協力を依頼できたらと考えている。

→地域も企業と連携を取ろうと考えているがなかなか難しいので、行政を間にはさむことでスムーズに進むかもしれないと助言をいただく。

(10) 会長まとめ

(11) 今後の学校運営協議会予定について

- ・第 2 回 10 月 29 日（木）、第 3 回 1 月 28 日（木）を予定。
- ・時間は 13：30～14：50